

途上国の廃棄物埋立地の課題

嫌気性埋立下における

- メタンガスの発生による火災リスク
- 浸出水及び悪臭の発生による生活環境の悪化
- 不適切な廃棄物管理による崩落事故の発生
- 財源及び技術の不足



持続可能な廃棄物埋立管理技術の導入が必要

従来の支援 先進国対応の最終処分場の建設

財源及び技術不足により施設の運転管理を継続できない

新たな支援 福岡方式(準好気埋立構造)の導入

現地の資材と人材で運転管理可能な安価で簡易な技術による持続可能性を向上



本研究の目的

地域別メタン発生量削減効果の具体化によるJCM事業の推進

福岡大学発埋立技術による国際貢献
(CDM技術認定：AC0093)

- 福岡方式のモデル埋立地による削減効果の実証
- メタン発生量推計のIPCCデフォルト値 (MCF) の更新

福岡方式の温室効果ガス量推計例 (アジア地域の例)

福岡大学のデータを基に、

IPCCのMCFデフォルト値は0.5に設定

